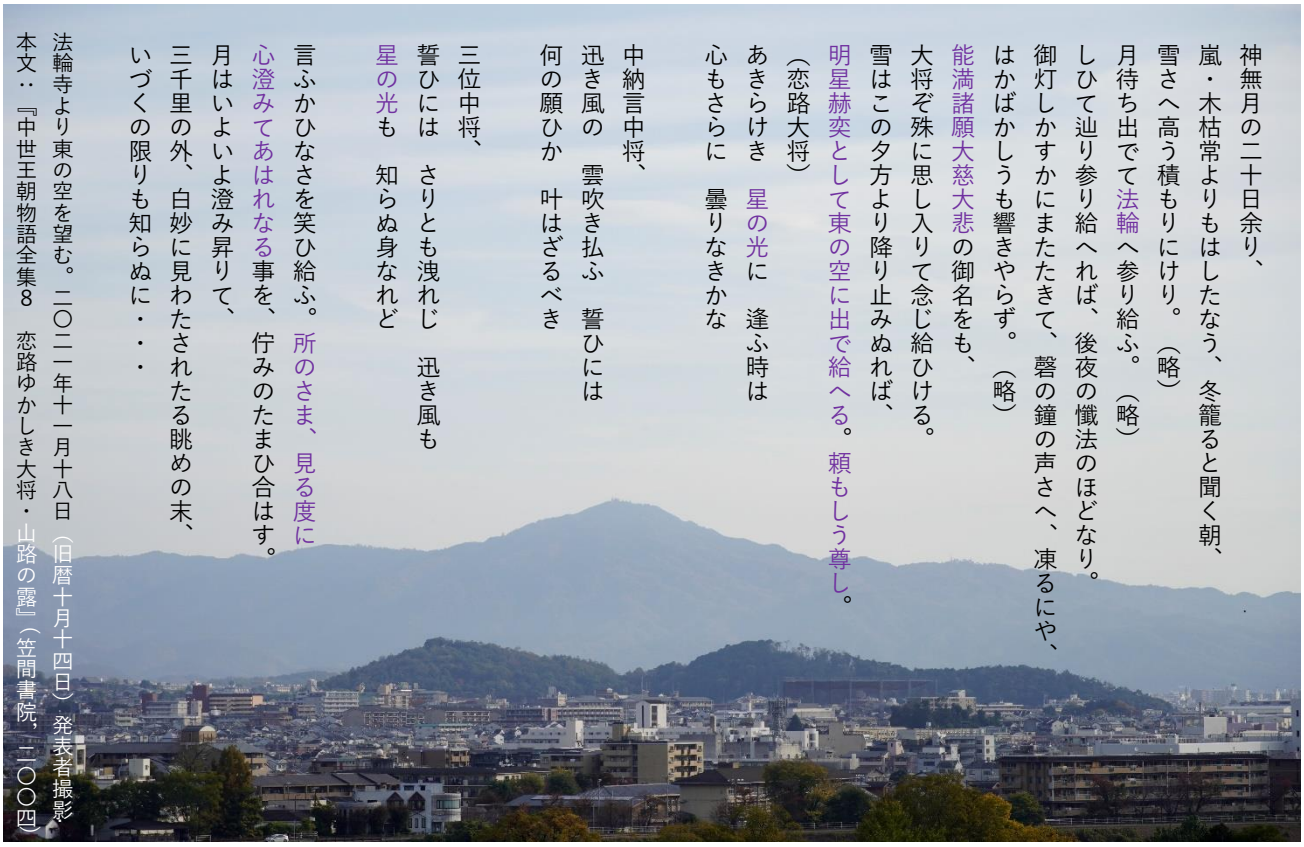
星の美を紡ぐ―室町時代
『恋路ゆかしき大将』

Koijiyukasiki Taisho–a fictional tale completed during the Muromachi period

● 物語に描かれた「星の光」

鎌倉時代後半～室町時代に成立したとされる『恋路ゆかしき大将』には「冬の星の美しさ」が描かれています．物語は，三人の男君が法輪寺を訪れる場面から始まります．その本文には『法輪寺縁起』の明星信仰がふまえられています．



神無月の二十日余り、
嵐・木枯常よりもはしたなう、冬籠ると聞く朝、
雪さへ高う積もりにけり。（略）
月待ち出でて法輪へ参り給ふ。（略）
しひて辿り参り給へれば、後夜の懺法のほどなり。
御灯しかすかにまたたきて、磬の鐘の声さへ、凍るにや、
はかばかしうも響きやらず。（略）
能満諸願大慈大悲の御名をも、
大将ぞ殊に思し入りて念じ給ひける。
雪はこの夕方より降り止みぬれば、
明星赫奕として東の空に出で給へる。頼もしう尊し。
（恋路大将）
あきらけき　星の光に　逢ふ時は
心もさらに　曇りなきかな
中納言中将、
迅き風の　雲吹き払ふ　誓ひには
何の願ひか　叶はざるべき
三位中将、
誓ひには　さりとも洩れじ　迅き風も
星の光も　知らぬ身なれど
言ふかひなさを笑ひ給ふ。所のさま、見る度に心澄みてあはれなる事を、佇みのたまひ合はす。
月はいよいよ澄み昇りて、
三千里の外、白妙に見わたされたる眺めの末、
いづくの限りも知らぬに・・・

法輪寺より東の空を望む。二〇二一年十一月十八日（旧暦十月十四日）発表者撮影．
本文：『中世王朝物語全集8　恋路ゆかしき大将・山路の露』（笠間書院，二〇〇四）

〈大意〉旧暦十月二十余日，嵐・木枯らしが例年より激しく吹き，冬籠もりの時季になったある朝，雪が深く降り積もった寒い日に，三人の男君が京都（都）から法輪寺（嵐山）へ出発しました．（略）月が出るのを待って法輪寺へ向かいます．（略）後夜の懺法の時刻に寺に到着．御灯明がかすかにまたたいて，磬の鐘の声さえも凍りついて、はっきりと遠くへは響きません．（略）恋路大将は「能満諸願大慈大悲」と，本尊の虚空蔵菩薩の御名を格別に心をこめて念じました．雪は夕方から降り止んでいたので，明星が輝かしく東の空に出ていらっしゃいます．その姿は頼もしくもあり，尊くもあります．

★（恋路大将の和歌）：虚空蔵菩薩の化身である，明るく輝く明星を見る時は，心の中に一点の曇りもなくなることだ．

★中納言中将の和歌：（虚空蔵菩薩はどのような願いも叶えるという誓願があるというが）強い風が雲を吹き払って，明星を現わしてくださった．その明星を目の前にしたとき，どのような願いが叶わないはずがあろうか（どのような願いも叶うに違いない）．

★三位中将の和歌：虚空蔵菩薩の，諸願を叶えるという誓願に，私も洩れることはあるまいと頼みにしています．私はその強い風も，明星の光もよく分からない煩悩の身ですけれども．

三位中将のしようのなさを二人の男君が笑います．法輪寺は，見るたびに心が澄んで感銘を受ける様子だと，三人で佇みながら話をしました．月は昇るにつれてますます澄みきって，三千里の先までも真っ白に見渡される眺めの果ては，どこが限りともわかりません・・・．

●『恋路ゆかしき大将』とは

鎌倉時代後半～室町時代前期成立か．
全５巻．作者不明．
物語は三人の男君（恋路・端山・花染）の恋愛を中心に展開しています．本作品は法輪寺，嵯峨野，太秦，梅津を舞台とすることから，洛西の地名が多く登場します．

● 法輪寺に参詣する、都の貴公子たち

男君が法輪寺にお参りしたのは「（旧暦）神無月の二十日余り」です．下弦の月が出ていたのでしょう．法輪寺到着は「後夜の懺法のほど」＝午前３～５時頃でした．この場面のポイントは「明星の光」が繰り返し言及されることです．「明星赫奕として東の空に出で給へる．頼もしう尊し」と，東の空に輝く明星の様子が描写されています．また，明星の光や，明星とともに現れた虚空蔵菩薩の誓願が和歌に詠み込まれています．男君が，法輪寺本尊・虚空蔵菩薩の御名を格別に心をこめて念じたことから明らかなように，物語の背景には明星信仰と結びつきが強い『法輪寺縁起』の存在が浮かんできます．

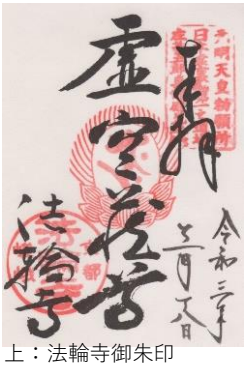
大阪工業大学 OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

星の美を紡ぐ―室町時代
法輪寺の明星信仰

The morning star (Venus) faith of Horinji-Temple

● 物語にみえる法輪寺

『恋路ゆかしき大将』巻一では仏道修行の場として法輪寺が設定され，詳細に記述されています．この法輪寺の描写は『法輪寺縁起』を踏まえたものと考えられます．『恋路ゆかしき大将』と同時代に制作された作品で法輪寺が登場する物語は『浅茅が露』，および，『風葉和歌集』所収和歌から推測される数作品（今は散逸）のみであり，本作品が物語の舞台として法輪寺を選び取っていることは極めて特徴的であるといえます．いったいどのような人物が本作品を作成したのでしょうか．その謎を解く手がかりは，法輪寺への強い信仰心や「星の光の和歌」にありそうです．



上：法輪寺御朱印
左：虚空蔵求聞持法御本尊を収めた microSD お守
下：法輪寺本堂

● 『法輪寺縁起』の「明星信仰」

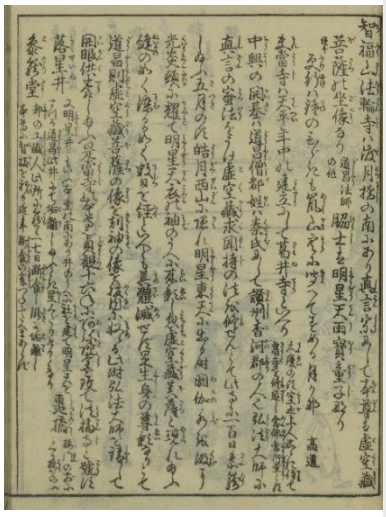
法輪寺の歴史は『法輪寺縁起』に記されています．ただし，成立年代は不明．本文中の表現から天慶年中（938～947）以降～室町時代の成立かとされています．

法輪寺のはじまりは，次のように記されています．

・・・開基である道昌が虚空蔵求聞持能満諸願法を修めるために勝験之地を尋ね求めていたところ，師である弘法大師が「葛井寺（＝法輪寺）は霊瑞いたって多く，勝験相応の地である」と教えた．天長六年〈829〉道昌は百箇日参籠の後に求聞持法を修めるに至った．また，同年五月頃には，東の天に現れた明星を奉拝し，閼伽水を汲んだところ，電光のような光炎が輝くと同時に明星天子が眼前に姿を現し，虚空蔵菩薩が道昌の衣の袖に現れ，数日間消え去らなかった．それは，書でもなく，彫刻でもなく，ちょうど縫い付けたような像であった．そこで道昌は虚空蔵菩薩の像を彫像し，「奇特の霊像」をその中に納め，神護寺の大師のもとへ持参し，供養した．・・・

● 『恋路ゆかしき大将』との重なり

1.法輪寺本尊・虚空蔵菩薩への信仰．
　縁起「虚空蔵求聞持能満諸願法」＝恋路「能満諸願大慈大悲の御名」
2.東の空に出現した明星の光を尊ぶ．縁起「明星出東天之暁」＝恋路「明星赫奕として東の空に出で給へる．頼もしう尊し」
3.明星信仰．『恋路』では「星の光」を和歌に詠むが，当時の和歌の作例としてはきわめて稀．



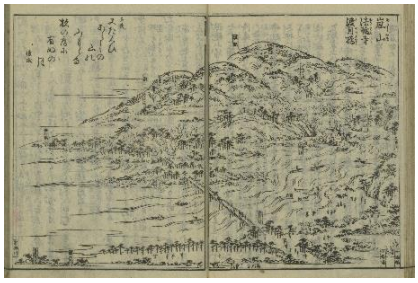
『都名所図会』安政９年〈1780〉刊行．
奈良女子大学学術情報センター蔵．

『都名所図会』（安政九年〈一七八〇〉刊）「法輪寺」項は「智福山法輪寺は渡月橋の南にあり。真言宗にして、本尊は虚空蔵菩薩の坐像なり。脇士は明星天雨寶童子なり」と書き出され、上記『法輪寺縁起』をふまえた説明が加えられています。法輪寺には、平安時代、能読で知られた道命法師が修行を行い、赤染衛門、西行らが訪れています。鎌倉時代には、藤原定家・為家らがたびたび法輪寺を訪問したことも『明月記』に記されています。

・藤原為家の和歌
（『夫木和歌抄』巻第三十四・雑部十六・一六四三一）
建長四年〈一二五二〉毎日一首中、法輪寺／為家卿

くももみな　虚しき空に　蔵（かく）れつつ
すめる嵐の　山のはの月

これら法輪寺参詣者の中に『恋路ゆかしき大将』作者もいるのでしょうか。鎌倉・室町時代からの謎解きです。



『都名所図会』安政９年〈1780〉刊行．
奈良女子大学学術情報センター蔵．
https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100238376
/ DOI: 10.20730/100238376

大阪工業大学 OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY